



「声」の欄・投稿規定

★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接この雑誌に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。

★この欄にはまた皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。

★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。

★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-3575-4748）とE-mail（アドレス：hifubyoh-shinryoh@kk-kyowa.co.jp）にても受け付けております。

★誌上での匿名は随意ですが、原稿には住所・氏名を明記していただきます。

1歳女児の頭部にみられた虫

編集部注：本欄に掲載された内容は、編集部宛にお問い合わせいただきました内容のやり取りを両先生方にご了承いただいて掲載させていただいたものです。

「このたびは、やや至急のご相談です。

昨日、うごめく多数の虫体(図)が頭皮にみられる1歳女児が来院されました。虫体のサイズは約0.25 mmであり、肉眼でかろうじて確認できました。通常のアタマジラミのような成虫や虫卵はみあたらず、ビデオスコープでの拡大像は少なくともダニ幼虫と思われ、また「ヒゼン」と近似しているようにみえます。

さしあたりスミスリンシャンプーとクシでの髪すきを指示いたしましたが、当方には初めての経験でありいったい何の昆虫なのか不明のため、明確な治療方針、生活指導がわかりません。そこで、貴編集部を通じてどなたかお詳しい先生のご助言をいただけないかとメールさせていただいている次第です。家人も保育園にあずけてよいのか困惑しております。

衛生状態によってはヒョウヒダニ類が肉眼で十分観察されるレベルで人体に多数寄生するというのは、必ずしもまれではないことなののでしょうか。

なお、検体を廃棄したためもはや画像しか残っておりません。再採取のため家人に連絡し再来の

約束を得たのですが、そのまま来院されなくなりました。

ご高配賜りますようお願い申し上げます。」



図 約0.25 mmの虫体(矢印)。頭に多数湧いていた。

＊自験例につきましては、馬原アカリ医学研究所 所長 藤田博己先生にも大変お世話になりましたこと、深謝いたします。

植田代三

(植田皮膚科クリニック)

夏秋先生からのメール①

いつも大変お世話になっております。ダニの写真を見いたしました。

ダニの幼虫であることは間違いのないようですが、残念ながら写真の精度が低いこともあって、種名の特定は困難です。



確かに一見するとヒゼンダニの形態に似ているようですが、ヒゼンダニの幼虫とは異なります。むしろ、コナダニなどの家屋害虫系のダニと思われます。

その患者さんの居住環境などで何かほかに情報があるとよいのですが、過去には皮膚、爪、外耳道などにコナダニ類が寄生した症例があり、その多くが不潔にされている症例です。

早速、ダニ類の専門家の先生にも問い合わせをしております。

ご意見をいただきましたら改めてお返事をさせていただきます。

夏秋先生からのメール②

早速、専門家のお2人の先生のご意見をうかがうことができました。

* 専門家Aのご意見

無気門垂目のコダニでしょうが、写真も焦点が悪い。

コナダニ類か、ヒョウヒダニ類?? よければ標本を送っていただければよろしい。

吸血、刺症などの起因種ではなく、まして感染症媒介性の種ではない。

一過性の寄生の可能性が高いので、洗髪などで様子をみられるよう指導されてはいかがでしょうか? その間に同定させていただければよろしいのでは。

* 専門家Bのご意見

コナダニ類のようですが判断できません。

やはりガムクロラル液等でダニを透徹したプレパラートを作成して同定しなければなりません。

ダニを70~80%アルコール液浸してお送りくださればプレパラート作成は可能です。

頭に湧いているのは生活環境に問題があるのでしょうか?

家庭環境等(お風呂に入れていないとか)の背景が知りたいです。

以上です。

基本的には清潔にして経過をみるだけでよいと思いますが、貴重なご意見を頂戴した専門家の先生に同定依頼をしたいと思います。

できましたら、患者さんの頭からダニを数個体、採取して70~80%エタノールの入ったスピッツ(あるいは1.5~2 mlのマイクロチューブなど)に入れて、密閉して兵庫医大の私宛にお送りいただければ、私から専門家の先生にお送りします。

恐れ入りますが、どうかよろしくお伝えくださいますよう、お願いいたします。

夏秋 優

(兵庫医科大学皮膚科学 准教授)

追加コメント:「医学野外調査支援会(MFSS)」というダニ類中心の著名専門家が縦割の弊害を除いて横の連絡をとっておられるネットワークがあり、皮膚科分野からのご要望は夏秋が窓口になって届けることはできます。(上記2名の専門家もMFSS所属の先生方です。)もしダニ類に関する同定の必要があれば上述の保存方法をご参照いただき、夏秋にご相談ください。(夏秋 優)